

令和4年度 第2回 学校運営協議会

日時：令和4年11月25日(金) 15:40～16:40

場所：別館ふれあい教室

出席者：大束委員(オンライン)、田中委員、福留委員

事務局：重松校長、橋爪教頭、中川事務長、岩田首席、長谷川先生(教務部長)

和田先生(生徒指導部長)、上野先生(生徒会主担)、田中裕先生(進路指導部長)、西基先生(保健部長)

奥田先生(1年学年主任)、北郷先生(2年学年主任)、岡田先生(3年学年主任)

欠席者：松宮委員、津田委員、田井委員、小林首席

内容

1 校長挨拶

学校経営計画の進捗状況の報告に加え、今回は事前資料として提示させていただいたスクールミッションについての議論も、後程お願い致します。限られた時間ではありますが、ご指導、ご鞭撻のほどお願いします。

2 出席者紹介

大束会長は、校務のためオンラインで参加。津田委員・松宮委員は、職場での臨時対応のため急遽欠席
田井委員は、所要のため欠席連絡あり。

3 学校経営計画の進捗状況報告

○ 校長より学校経営計画の項目別進捗状況について

(1) 教科指導の充実

授業満足度は前期90.5%と評価指標を上回った。また、先週1週間を公開授業週間と位置づけ、毎日1人の教員が公開授業を行い、放課後に研究協議の機会を設定した。

あわせて、初任者の研究授業、インターメディアイト(経験の浅い教員)の研究授業も合わせて実施し研究協議を別途実施し、教員間で授業改善の取組を共有した。

(2) 自学自習する力の育成

昨年度に開設した自習室(2階職員室前)は、常時4～5名が活用しており、評価指標を達成できる状況。

(3) 進路指導の充実(模擬試験や学力生活実態調査の活用)

学力診断テストにおける学力評価(2年次Cゾーン以上の割合)は、昨年79%から78.3%と評価指標を上回る状況。

(4) 豊かな人間性の涵養(協働的活動を通じた人間性の育み)

校内挨拶運動への参加については、生徒指導部が企画する生徒指導週間(登校時頭髪・服装指導)にあわせて、生徒自治会役員による挨拶運動を実施。生徒自治会役員は、寝屋川10中学校区の小学校に出向き、登校時の見守りと挨拶運動を5月および11月に実施した。また、近隣の寝屋団地の自治会大掃

除に、本校の自治会生徒・教員が参加し、落ち葉拾い、雑草処理等、地域への奉仕活動を行った。

さらに今年は、地域活性化の取り組みの一環として寝屋川地域の保育園との連携を実践した。文化祭終了後に制作した展示物の一部を園に寄付贈呈し、園の行事などに再利用していただき園児たちを楽しみながら広く活用していただいた。

(5) 活力のある学校づくり

引続き、短期留学は実施できていないが、昨年・一昨年に引続き、オーストラリアの高校生（日本語専攻）との Web 交流を実施。今年は、先月 10/24 の実施と来週 11/28 に実施予定。現在、発表用の文案作成など準備を進めている。

○ 分掌、学年より学校運営の進捗状況(10 月 31 日現在)について

[別紙資料]により報告

4 協議・意見交換(司会は、田中副会長)

(大束委員長) スクールミッションの議論の過程等については、良くまとめられている。皐が丘の特徴は何か、ということ言えば、専門コースを挙げている点は良いと思う。立地条件に記されているように 3 市(寝屋川市・枚方市・交野市)の境にある学校ということで、地域の教育力をより活用しながら進められるとよいのではないか。

(福留委員) 中学生が行きたいと思う学校とは、『行事が楽しい』『自分たちが(自主的に物事を)やれること』があること。地域活性化にも繋がる話だが、今年は寝屋川 6 中校区で地域のお祭りを開催した。飲食はなしで行ったが、午前 10 時から午後 1 時までの 3 時間だったが、延べ 1500 名が来場した。このような場では、多様な価値観を知る、グローバルコミュニティがあり、そのような体験をさせたことは大きな意義があった

[松宮委員：スクールミッションに関する意見(田中委員による代読)]

普通科専門コースという特色の有るカリキュラムを有する府立高校として、高校レベルにおけるリベラル・アーツ (liberal arts) 科目に関するリテラシーを最大限高めることが望まれる。そのための「鍵」となるのが、非認知能力に代表されるソフト・スキルの涵養と、基本的な生活習慣、および、学習習慣の確立であると考え。スクール・ミッションやスクール・ポリシーにおいて、地域社会やグローバルコミュニティとの関係性の中で教育を実践・推進することが示されていることは評価できる。以上。

(田中委員) 先生方から意見収集された中で、『皐が丘の強みがない』と回答している教員が複数名いた。その点は、教員間で共通認識を持てるよう、意見交流の機会を引続き持つ必要があるのでは。ジェームズ・ヘックマン(James Heckman)の論文「幼児教育の経済学」では、幼児教育における非認知能力教育の重要性が指摘されている。また、これからの社会では IQ にとらわれない非認知能力の育成が問われている。所謂トップ校では、偏差値や学力、知能指数に代表される認知能力により評価されているが、目には見えないもの、数値に現れない普遍的な、幹となる部分を、学校説明会や HP 等で広く周知すべきではないか。色々な取組をされているが、教員が共通の認識を持っていなければ、すべてがピンぼけになってしまう。

(福留委員) 今年も皐が丘の志願者が多くいた。中学生にも皐が丘への志願理由などを確認しようとしているが、寝屋川学・枚方学のような地域学・この地域ならではの事を学べるのか、皐が丘なら何が学べるのか、そういった根本になることを深めていってもらえればと思う。

(田中委員) 学校評価については、学校関係者だけでなく外部の方にも学校に入ってもらうことも検討しては。保育園でも公開保育や寝屋川市の担当課職員にも見に来てもらっている。
(道路交通法改正に伴う)自転車乗車時のヘルメット着用努力義務の報告があったが、寝屋川ドライビングスクールとの連携などにより先生方の負担も軽減され、担任業務等に集中できるのでは。

5 閉会の挨拶(重松校長)

本日はありがとうございました。最後にご指摘の地域との連携については、本校では既に寝屋川ドライビングスクールとは連携させていただいています。登下校時に、交通法規違反があった場合は、学校で指導し、それが度重なるようであれば、一時的に自転車通学許可を禁止します。通学許可が禁止された生徒は、寝屋川ドライビングスクールでの安全講習会(無料)を受講し、修了書を受け取った後に、再度、自転車での通学を許可している状況です。引き続き、地域と連携しながら、皐が丘での教育活動を進めていきたいと考えているところです。

スクールミッション(案)については、今後、教育庁へ提出・承認された後に、改めて、本日はいただいたご意見を踏まえたスクールポリシーの議論を深めていきます。本日はありがとうございました。